

小中学校 特別の教科 道徳の指導におけるICTの活用

県教育庁義務教育課

多面的・多角的に考えるための活用例

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

<授業の流れ（例）>

- ①「規則の尊重」と「親切、思いやり」との、いずれの立場を重視するかについて自分の考えを選択し端末に入力する。
 - ②端末で他者の考えを知る。
 - ③相互の考えについて根拠に基づき、議論する。
 - ④端末に入力した全体の考えを共有し、振り返る中で考えを深める。
- ※互いの考えを伝え合ったり、相手の思いを受け止めて話し合ったりすることができる支持的な学級風土が重要となる。

※下線部が端末の活用を想定



自分自身との関わりの中で深める活用例

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。

<授業の流れ（例）>

- ①「正直、誠実」とは何かについて他者との議論を通して道徳的価値を理解する。
 - ②自分自身にとって「正直、誠実」は、何を大切にすることを改めて自己を見つめ整理し、端末に考えを表記する。
- ※人前で話すことが苦手な児童生徒も考えを示すことが可能となる。
- ③教師が端末に入力されたそれぞれの考えを把握・整理し、全体に共有する。
 - ④子供の考えを全体に紹介する。

※下線部が端末の活用を想定



道徳科では、子供たちの学習状況について大くくりなまとまりを踏まえた評価が求められる。

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。（小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳）

評価に当たっては、特に、学習活動において子供が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、次のような点を重視することが重要であり、ICTの効果的な活用が子供たちの学習活動を促すことにもなる。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

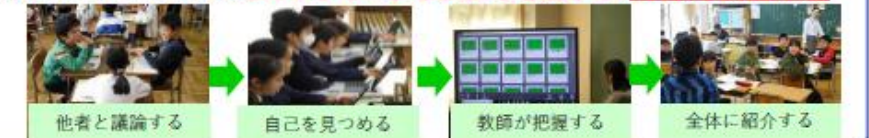
- ・問題を自分事と捉えて授業に臨む。
- ・端末で、他者の考えを知り、共有して多面的・多角的に考え、自分の考えを表現する。



道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。

- ・議論を通して道徳的価値を理解する。
- ・改めて自己を見つめ、端末に自己の生き方についての考えを表記し、共有する。



また、年間や学期という一定の期間を経て評価するためにICTを活用することが、子供たちが自己を深く見つめることや教師の負担軽減にもつながる。

道徳科の評価のための活用例

継続的な授業によって子供の学習状況を見取り、子供がいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価を行う。

- ・毎時間の授業記録を端末に保存していく。
- ・子供が学びを振り返り、成長の様子を実感する。
- ・教師が子供の学びを見取り、評価に生かす。



ここに掲載した内容は、文部科学省 HP「各教科の指導における ICT の効果的な活用に関する参考資料」から抜粋したものです。詳しくは、下記文部科学省 HP をご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html